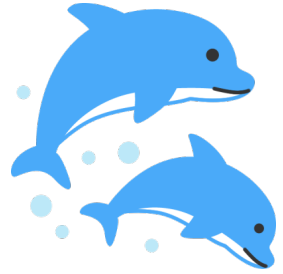


NewsLetter

自治医科大学地域医療オープン・ラボ



Vol.187, Aug, 2024

離島からの論文作成

☆推薦文☆

古藤聡一先生、BMJ Case Report への論文掲載、おめでとうございます。最初にCRSTからこの症例報告について相談を受けた際には、最悪の場合はどこにも accept されないリスクもあるかも？と感じたのですが、古藤先生はそれでもチャレンジしたい！ということで2023年5月にこのプロジェクトが始まりました。なにしろ、離島で頑張るリアル「Dr コトー」先生です。やると決めたからにはきっと形にしてくれるだろうという思いで、まずはストーリーの概要を構築し、日本語での論文原案ができあがったのが2023年8月、翌月には英語版をお送りいただき、推敲を重ねたうえでBMJ Case Report に投稿したのが2023年10月、一度のReviseを経て、2024年5月にプロジェクト開始からちょうど1年でacceptをいただきました。考察をどのように展開するかが難しかったのですが、reviewerに与える印象を意識して飛躍した推察は避けて確実な理論展開に徹し、最終的にまとまりのよい論文になったと思います。この間に古藤先生からいただいたメールが22通、私からお送りしたメールが20通(私が少ないのは既読スルー??)。全国で活躍している先生方とこのように交流することができるのが自治医科大学の魅力です。古藤先生にはこの経験を活かして今後も論文執筆をがんばっていただき、将来は指導者としてCRSTに戻ってきてくれることを期待しています。

自治医科大学内科学講座血液学部門 神田善伸

古藤 聡一 (鹿児島県 43期卒業)

鹿児島 43期の古藤聡一と申します。この度、鹿児島県立大島病院に勤務した際に経験した症例が、地域医療研究支援チーム (CRST) の神田善伸先生から多大なご支援を賜り、BMJ case report "Chronic myeloid leukemia with soft tissue mass formed by mature granulocytes" に掲載されました。この場を借りてご報告とお礼申し上げたいと思います。

鹿児島県立大島病院 (350床) は奄美群島の中核病院としての役割を担っております。鹿児島の卒業生には初期研修、公的病院勤務などで馴染みの深い病院です。現在も卒業生が中心となって総合診療科/総合内科の診療を続けております。診療科は多数あるものの、血液内科、腎臓内科、呼吸器内科、糖尿病内分泌科、耳鼻咽喉科などの常勤が確保できないこともあり、総合診療科/総合内科が診療の幅をもち、専門医に相談しながら対応することが多いです。今回報告した症例も本土の血液内科非常勤医師と連携をとりながら離島での治療を継続しておりました。

私が本症例の患者様にお会いしたのは、医師3年目として同病院の総合診療科に勤務している時でした。慢性骨髄性白血病 (CML: Chronic myeloid leukemia) を治療自己中断し、数年が経過している状態で、大腿の疼痛が強くなり、近医を受診し、異常な白血球増多と大腿軟部腫瘤を形成し当院へ入院となりました。当初、数十万台の白血球数や髄外病変を形成していることもあり、CML急性転化なども想定される状況でした。しかし、骨髄評価、軟部腫瘤の生検/病理評価なども行なっていく過程で慢性期 CML の診断となり、慢性期用量の



チロシンキナーゼ阻害薬のみで腫瘍の消退、寛解に至ることができました。

今回の症例を経験して「日常診療のなかで悩む症例をしっかり調べてみたい」、「同じように悩む症例を経験している人がいないか」と文献を検索するうちに、この症例を形にしてみてもどうかと周囲から勧められました。離島という環境で気軽に相談できるメンターも不在の中で、どうしようかと迷っていたところ、CRST への相談を提案していただきました。「地域でも論文は書ける」と先輩方から幾度となく言われておりましたが、実際に一歩目を踏み出せずにいたところ、同じように CRST への支援をいただきながら論文作成を行なっている同期が背中を押してくれました。CRST へ相談後は阿江先生、神田先生とも相談させていただきましたが、「論文文化は困難かもしれない」といった状況でした。そんな状況でも神田先生には見捨てず親身にご指導いただき、徐々に形になっていくにつれて高揚感を抱いたのを今でも忘れられません。神田先生には学生時代のBSLでしかお会いできていませんでしたが、大変ご多忙な中、何度もメールのやり取りをさせていただき、軌道修正していただき、1度のRejectも経てなんとかAcceptまでたどり着くことができました。英文での論文作成までの過程、revisionへの対応、一連の流れを体験でき、大きな糧となったことは間違いありません。

論文作成したいけど、「近くにメンターがいない」、「そもそも論文文化できるのかな」など同じような悩みを抱えている方も多くいらっしゃると思います。ぜひCRSTに相談してみてください。一歩目を踏み出した後は日々の診療が変わって見えるかもしれません。

最後になりましたが、長い期間に渡りご指導いただきました神田先生はじめ、CRSTの先生方に心から感謝申し上げます。

(Koto S, Kanda Y, Ohnou N, Morita Y. Chronic myeloid leukaemia with soft tissue mass formed by mature granulocytes. BMJ Case Reports. 2024;17(6):e258700.)